

令和7年度 江戸川区立上一色南小学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・あかるく ・かしこく ・なかよく ・たくましく 	目指す生徒像 目指す教師像 目指す学校像	○子ども【わくわく】！…子どもたちの「笑顔」があふれる楽しい学校 ○教職員【生き生き】！…教職員が「やりがい」をもって、はつらつと働ける学校 ○保護者・地域【安心】！…保護者・地域の方から「信頼・応援」していただける学校
前年度までの本校の現状	成果 <ul style="list-style-type: none"> ・教育課題実践推進校（算数）としての取り組みを通して、自力解決や学び合いへの意識を高めることができた。 ・らんらんフェスティバルや運動に関する学校独自の様々な取組により、子どもたちの体力を向上を図ることができた。 	課題 <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度実施の学力調査では、応用力や読解力にかかわる項目において、区の平均に未到達のものが複数あった。基礎的な学力に加え、それをもとにした応用力を養うために、自力解決と意見交流の場を今後も意図的に設定して、一人ひとりの力を伸ばしていく。 	

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価(A～D)		「中間」学校関係者評価(A～D)		「年度末」自己（学校）評価(A～D)		「年度末」学校関係者評価(A～D)		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力向上	○児童の学力向上及び授業力向上	昨年度の教育課題実践推進校としての研究成果を生かして、授業力向上と学力向上を図る。	学力調査において区の平均点の獲得を目指す。	C	C	C	全国学力・学習状況調査では全国平均を3～6%下回っている。調査で判明した課題を分析し、学力向上を目指す。	B	家庭と学校が協力して、学力向上や学び意欲を高める取り組みを続けたい。	B	学力向上・指導力向上の取り組みを続けてきたが、目標を達成する段階にはまだ至っていない。	B	落ちこぼれで学習に取り組みができていないと感じられる。今後も、学校と家庭で連携しながら子どもたちを見守りたい。	今年度の対策で効果のあった取り組みについて共有を図り、学力の向上を目指す。
	○個別最適な学びの実現	ipadを授業に加え、朝学習などの個別学習でも活用し、個に応じたペースで学習を進める。	保護者アンケートの学力向上のための取組の工夫の肯定的評価80%を目指す。	B	B	B	前年に続き、タブレットを計算練習やドリルパークで活用して個別の学習を取り組み、基礎力を高めている。	B	子どもたちは、タブレットを活用して授業に取り組んでいる様子が見られた。	B	タブレットを授業の予習や復習の他にも、記録や意見交換など幅広い目的で活用することができた。	B	タブレット活用による個別学習の他にも、定期的な漢字テストの実施や個別指導により基礎学力が伸びていると感じる。	学力調査の結果を分析し、個々の課題に合わせた取組にタブレットを活用していく。
	○読書科の更なる充実	司書、図書館ボランティアと連携し、効果的な図書館の活用や定期的な読み聞かせ等を取り組む。	毎学期、図書を活用した調べ学習を実施し、調査の技能を高める。	B	B	B	図書を活用した調べ学習の際に予め関連書籍を教室内に配架することで、スムーズに調べ学習に取り組めている。	B	学校図書館に加え、教室にも学習に合わせた本が配置されており、指導に生かされている。	A	日常から読書環境を整えることを通して、読書への意欲や、図書を活用した調査する力をたかめることができた。	A	図書ボランティアと学校が協力して、読書環境の整備や読み聞かせの取り組みを続け、読書への関心を高めることができた。	高まった読書への関心を生かして、一人当たりの年間貸出冊数の増加を目指す。
体力向上	○体育授業の充実	系統性を重視した年間指導計画による指導を徹底し、様々な運動に触れる機会を確保する。	8割の児童が体育の授業が楽しいと感じる授業を行う。	A	A	A	ルールや場を工夫することによって、中学年から積極的にネット型取り組みなど、先を見据えた活動ができていく。	A	体育の授業に工夫がされており、子どもは体育の時間を楽しみにしている。	A	約8割の児童が、体育の授業を通しての技能の向上を実感しており、そのきっかけを教師の指導や学び合いと感じている。	A	楽しみながら運動に親しむことができており、その結果が子どもの体力向上につながっていた。	体育の授業の工夫を教員間で共有し、子どもの意欲と体力を高める指導を目指す。
	○児童の基礎体力の向上	学校独自の縄跳びや持久走への取り組みを通して、楽しみながら運動に取り組み、運動の日常化を図る。	全ての児童が、毎週1時間以上の運動に取り組むことを目指す。	A	A	A	定期的に全校で運動に取り組む機会を設定することで、基礎的な体力の向上を図ることができた。	A	学校では、体力作りの行事に頻繁に取り組んでいる。今後の取組にも期待する。	A	らんらんフェスティバルや長縄跳びに対し、それぞれが目標をもって取り組み、体力や技能を向上させることができた。	A	様々な行事や校庭の広さや運動遊具の充実等の学校の運動環境の良さを生かして、体力向上が図られている。	今後も学校全体で取り組む運動活動の充実を図り、体力の向上を目指す。
	○進んで体育に取り組もうとする意欲の育成	運動や健康についての自己課題を理解し、その解決に向けて思考判断する機会を設定する。	スポーツテストの意識調査において体育を好む児童の割合9割を目指す。	A	A	A	体育の授業では、児童自身が考え活動する工夫するための時間を設定することで、より充実した運動が実施できた。	A	子どもは運動や体育の授業を楽しんでいる。運動に対する意欲を高める取り組みを続けてほしい。	A	スポーツテストの意識調査において体育を好む児童の割合が95%を超えており、運動に取り組む意欲が高まっている。	A	らんらんフェスティバルや長縄跳びの取り組みを通して、目標をもって楽しみながら運動に親しむことができていく。	今後も児童自身が考えながら運動に親しむ指導を工夫していく。
教育の推進 実現に向けた 共生社会の 推進	○ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実	特別支援教室専門員・巡回指導者・日本語指導員や日本語教室との連携	支援を受ける児童の情報を共有する場を毎月設け普段の指導に生かしていく。	A	A	A	職員間の情報共有を通して、児童に必要な支援を行うことができていく。	A	学校の全ての子どもたちにとって学びやすい環境づくりに努めることを期待する。	A	巡回や外部の指導者と情報の共有に努めながら、児童にとって効果的な支援を行うことができた。	A	サポートを必要とする子どもたちに、適切な支援が行われている。	支援にあたるスタッフと教職員で児童に関する情報共有を密に行い、効果的な取組を進める。
	○エンカレッジルームの活用促進	特別な配慮を要する児童には、エンカレッジルームを活用して、個に応じた適切な支援を行う。	エンカレッジルームを必要とする全ての児童に場を提供する。	B	A	B	エンカレッジルームを活用して、支援が必要な児童の気持ちを落ち着かせることができていく。	B	エンカレッジルームがあることで、子どもが気持ちを切り替えることができていく。	B	エンカレッジルームの利用で登校を継続することができた。また、ルームから学級へ参加する機会も増えている。	B	エンカレッジルームがきっかけとなって、登校を再開することができた子どもがいる。今後の活用も期待したい。	教員間で体制を整え見守りを行っているが、サポートスタッフと連携した支援を目指す。
	○副読交流、交流及び共同学習の実施・充実	鹿本学園との共同学習や児童同士の交流を通じた体験的な学習を実施する。	児童の交流活動の年1回以上の実施	B	B	B	今年度の交流活動に向けて、鹿本学園と連絡を取り合っている。	B	子ども同士の良い交流を通して互いに理解を深めていく姿を期待する。	B	今年度は、3年生の作成した作品の交換公開を実施した。作品を通じた交流を期待している。	B	今後も、交流を通じて学んだことを大切にしていってほしい。	今後も定期的な交流を続けるために、双方の学校で計画を調整する機会を設けていく。
不登校・いじめ対応の充実	いじめや不登校対策の実施・充実	毎週、生活指導夕会を行い、問題行動の早期発見・早期対応、事故等の未然防止に努める。	保護者アンケートの「いじめの防止」に対する肯定的評価を80%以上とする。	A	A	A	日常での指導やアンケートの活用、保護者との情報共有を通して、問題行動の防止・発見・対応に取り組んでいる。	A	今後も、子ども悩みが解決できるように、家庭と連携しながら取り組みを続けてほしい。	B	不登校への対応を、SCやSSW、保護者、教育関連機関と連携して取り組み、児童のケアにあたることのできた。	B	子どもの悩みや困りごとに家庭と学校・スクールカウンセラーが一緒になって取り組んでいると感じている。	子どもにとってより安心できる環境を整えることができるように、連携して取り組む。
	L-gate毎日の記録の活用	毎日の記録を児童一人一人の支援に生かす。1学期末の個人面談時に保護者と共有し連携を図る。	個人面談時に保護者と共有し連携を図る。	A	A	A	毎日の記録を確認することで、より広い視野で児童の状況を見取ることができている。	A	子どもの悩みを様々な方法で相談できる取り組みを今後も継続してほしい。	B	毎日の記録に自由記述の欄を設けていることで、児童の思いや悩みを知る機会が増え、指導に生かすことができた。	B	毎日の記録にメッセージを書き込むことができるので、今後も見守りに生かしてほしい。	引き続きL-GATEを活用して児童の見守り続けるために、時間の確保を徹底していく。
	教育相談の強化	SC及びSSWとの連携を図り、児童のケアに努め、すべての児童が安心して生活できるようにする	5学年全員面接を実施し、職員間で共有した情報を基に教育相談につなげていく	A	A	A	SCやSSWとの情報共有により、支援を必要とする児童のケアに努めることができた。	A	スクールカウンセラー先生が、話を聞いてくださることで、親子ともに安心できます。	A	SCやSSWとの情報共有を通して、多面的に児童への支援を行うことができた。	A	スクールカウンセラーの先生に相談できる環境が整っていることで、安心できることが多かった。	SCやSSWと学校・家庭の適切な連携が図れるように情報共有の体制を整える。
学校（園）開かれた地域社会の実現	学校（園）ホームページの充実等	学習規律、生活規範に関する「7つの合い言葉」の取組状況をHPに掲載し保護者・地域と連携強化を図る	「7つの合い言葉」における達成率を全学年で5%向上させる。	A	A	A	「7つの合い言葉」の取組により、生活面での成果と課題が具体的に把握でき、指導と支援の役割定着ができた。	A	子どもたちの生活面での頑張りがよくわかります。	A	「7つの合い言葉」の取組の結果を掲示することで、児童の意識を高めることができた。	A	HPや校内掲示版に「7つの合い言葉」の取組の様子が掲載されており、生活を見直す良い機会が得られている。	生活上の課題が視覚化できることを生かして、今後も家庭と情報共有を進めていく。
	学校（園）公開の実施・充実	年3回の土曜授業を実施する。親子参加型の道徳授業地区公開講座を行い教育活動への理解促進を図る	「家庭地域との連携を深める取組」の肯定評価を85%以上とする。	A	A	A	土曜授業の公開に加え、らんらんフェスティバルなどの学校独自の取組により、学校での児童の様子を伝えることができた。	A	土曜授業の公開は、時間的なゆとりがあり、子どもの様子をじっくりと見ることができた。	A	土曜授業公開に加え、運動会や音楽会を、児童の普段の頑張りや成果を家庭と共有することができた。	A	音楽会では、素晴らしい発表を聴くことができました。子どもたちの頑張る姿を見られることを楽しみにしています。	大きな行事だけでなく、書初め展やクロッキー展などの展覧を充実させていく。
	教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施	ネットを活用した学校関係者評価を実施し意見を募る。それらをもとに改善に向けた方針をまとめる。	保護者アンケートの回収率を80%以上とする。	B	B	B	学校だより・学年だより・学級だよりを通して、学校の教育活動の情報を共有することができている。	B	学校の教育活動の予定や子どもの学習の様子をお便りで知ることができている。	A	運動会や音楽会実施後のアンケートで寄せられた意見を参考にし、取り組みの見直しを行うことができた。	A	アンケートの結果を通して、よりよい学校づくりに貢献できればと思います。	保護者や地域から寄せられた意見を生かして、地域と協力しながら指導に取り組んでいく。
教育の特色ある展開	1人1台端末を効果的に活用した学習習慣の確立	毎週金曜日の朝学習、毎日の家庭学習、日々の授業においてタブレットを活用し学習習慣を確立させる。	朝学習で前学年の復習を9月まで、当該学年の復習を行い3月までに終わらせる	B	B	B	タブレットを活用した学習習慣が定着しつつある。今後は、自主的な学習にも活用できる技能を養っていききたい。	B	授業内や宿題、日々の連絡などにタブレットを活用している。今後も適切な使用を期待する。	B	授業時間での活用に加え、ドリルパークを使用して、授業の復習に取り組み学習内容の定着を図ることができた。	B	学校では、調べ学習の他にも、アプリの使用や写真の撮影など様々な場面で工夫してタブレットを活用している。	学力調査の結果とドリルパークの連携させ、復習に取り組むことで学力の定着を図っていく。
	体育的行事と体力向上を目指した運動の日常化	毎週の運動遊び、毎学期の長縄週間、年間2回の持久走を実施する。外遊びの日常化を図る	「たくましい子を育てるための取組」の肯定評価を90%以上とする	A	A	A	全校で取り組む運動活動の継続により、運動の日常化と体力の向上を図ることができている。	A	学校で定期的に運動に取り組むイベントがあり、その様子も参観することできる。	A	学校全体で取り組む体育的活動により、児童の基礎体力の向上と運動に対する意欲を高めることができた。	A	クラスや学校全体で運動に取り組むことで、体力を高めるとともに子ども同士のつながりを深めることができていると思う。	楽しみながら体力の向上が図れるように、場面と環境を整備していく。
	陶芸・クロッキーに親しみ感性を育む	陶芸の授業やクロッキータイム及びクロッキー展を行い情操教育の充実を図る。	「豊かな感性を育むための活動」の肯定評価を95%以上とする。	A	A	A	授業での制作活動に加え、夏休み期間中にPTAと連携して陶芸教室を実施するなど充実した取り組みを行うことができた。	A	普段のクロッキーの取組に加え、夏の陶芸教室など芸術関連のイベントが充実していた。	A	学校独自で取り組んできた情操教育により、児童の創作活動への興味・関心を高めることができた。	A	音楽会に合わせてやきもの展を開催されたため、多くの子どもが作品を見る機会があり、とても良かった。	作品展を開催しているが、行事の時以外は鑑賞者が少ないので、多くの目に触れる場面を工夫する。